

<マイコプラズマ肺炎>

今回はマイコプラズマ肺炎についてご紹介します。この病気は痰や唾液、咳で人にうつる飛沫感染です。そのため小集団内で流行を起こすことが特徴であり、以前は夏季オリンピックの開催年に流行することが多かったため、現在も別名でオリンピック病と呼ばれることがあります。マイコプラズマは市中肺炎の原因菌としては肺炎球菌に次いで多い微生物で、本菌による肺炎は比較的軽症であることが多いです。またこの微生物は気管や喉などの気道に感染し、主に気管から肺で増殖することが特徴です。

【主な症状】

喉の痛み、鼻水、鼻づまり

37℃程度の微熱から39℃以上の高熱

咳、痰のからむ咳（解熱しても1ヶ月近く続く症状）

喘息があると、喘息の悪化、喘鳴

呼吸困難

乳幼児に感染した場合は風邪程度で済みますが、学童期頃になってからや大人が感染した場合は肺炎になります。発症年齢は8～9歳がピークであり、感染から発症までの潜伏期間は1～3週間ほどで、4週間に及ぶこともあります。季節では秋から冬に多いのが特徴なので今の時期は特に気を付けましょう。また風邪の症状と似ているため上記の症状が当てはまる方は早めにお近くの医療機関へ受診する事をお勧めします。